

「古賀市との連携事業に関する活動成果と 次年度の課題について」 「補論 福岡流通センター祭りへの 運営協力に関する報告」

岡村東洋光

1) はじめに

大手予備校の河合塾による2010年のアクティブ・ラーニング¹（以下、ALと表記）に関する調査記事²によると、一部の大学を除き、文科系学部におけるALの取り組みは遅れている。本学では、唐突な印象ではあったが、2012年から「KSU プロジェクト型教育」の推進がなされてきており、経済学部では、2012年度、および2013年度にALの新任人事を起こし、学部として積極的に取り組んできている。幸い、2013年度に関しては、本号の下田報告にあるように、オープン・キャンパスの活動を中心に大きな成果をあげることができた。

他方、社会との連携事業に関しても、文科省や企業サイドから、社会貢献と産学連携、したがって就職力（社会人力）の育成の観点から、盛んに推奨されている。本学でも、遅れ馳せながら、前向きに取り組む試みがなされてきている。経済学部では、平成25年度の取り組みとして、正規の授業としてのALには間に合わなかったが、ゼミナールの活動の一環として取り組み、

「古賀市との連携事業」と「福岡流通センター祭りへの協力事業」を行った。

この試みは、ALとして、産官学連携事業に取り組んだものであり、次年度以降の継続性を考え、資料として残すことにした。今年度の活動の総括を行い、次年度以降の活動に役立つと思われる情報の整理を心がけた。

2) 取り組みの経緯

活動の始まりは、2012年度のことであった。古賀市の工業団地で「食の祭典」が5月に行われることを古賀市のホームページ（HP）で知った筆者が、産学官連携事業を模索する観点から古賀市役所に連絡をいれた。その際の回答は、「食の祭典」については、企画が既に進行しており、学生が参加するのは難しいが、8月に新しい企画に取り組む予定なので、協力をしてほしいとのことであった。

4月に入り、古賀市から担当者が経済学部を訪ねてこられ、意見交換を行った。その結果、第1回「古賀モノづくり博 工場見学・体験教室～工場見学したいけんツアー」（8月22日に予定）に、経済学部が協力することを約束した。さっそく参加学生を募ったが、応募者は少なく、数度に亘って宣伝をし、何とか数名を集めることができた。とはいえ、参加学生を最終的に確保することはかなり厳しかった。単位がないというのも難しい理由の一つであったと思う。説明会には参加しても、準備過程の途中で来なくなった学生も少なからずいた。最終的には、担当のゼミ生（3年生4名、2年生1名）5名を動員し、他ゼミに呼びかけ3年生3名を確保し、担当の講義で1年生に呼びかけ3名を確保した。総計11名であったが、事前の準備については、他の3年のゼミ生に手伝ってもらった。

のちに見るように、この企画の内容は、古賀市の小中学生が、地元にある工場を見学するとともに、もの作り体験をし、終わった後にその内容をまとめ、当日の夕刻に発表するというものであった。したがって、工場見学が終わり、発表会場のリープスプラザに戻ってきたら、約30分で発表の準備を整えないといけないう時間設定だった。それゆえ、あらかじめ学生がおおよその発表資料を作成した上で、当日の写真を貼るなどして、完成させる手

筈にしておかないといけなかった。そのため、事前の工場見学は必須であり、それを参考に、模造紙に班ごとの発表資料を作成することにした。

班分けも大変だった。学生のメンバーが辞めるたびに、他の班から移動させ、補った。結局、4人のゼミ生を班の責任者に仕立てた。班分けは以下の通りとした。

- ・ 第1班；責任者は3年生のOK君，他に3年生のOT君，1年生のKT君とFS君の4名。
- ・ 第2班；責任者は3年生のMYさん，他に3年生のSK君の2名。
- ・ 第3班；責任者は3年生のTS君，他に3年生のKS君の2名。
- ・ 第4班；責任者は3年生のMYさん，他に2年生のMYくん，1年生のKH君の3名。

以上の11名と筆者、学部事務のKさんとで手分けして、カメラ持参で学生とともに工場見学を行った。工場見学に行く前に、学部の事務室で各学生の名刺を作成していただき、キャリア支援センターのNさんに、会社訪問時の服装、名刺交換の仕方や挨拶の仕方等の基本を指導していただいた。こうした準備をしたのちに、以下のような日程で、工場見学、ならびに古賀市との打ち合わせをおこなった。

- ・ 4月26日(金)16：00より古賀市T課長との打ち合わせ（KSU）
- ・ 5月8日(水)12：30から学生向け説明会開催
- ・ 5月13日(月)12：30から第2回目の学生向け説明会開催
- ・ 5月19日(日)古賀市工業団地で「食の祭典」開催，見学に行ったが，雨天で客足伸びず
- ・ 6月10日(月)12：30から第3回目の学生向け説明会開催
- ・ 6月11日(火)15：00古賀市役所で第1回実行委員会開催，参加
- ・ 6月18日(火)12：30から第1回目の参加学生との打ち合わせ会
- ・ 6月19日(水)10：30古賀市職員と打ち合わせ（KSU）
- ・ 6月19日(水)12：30から第2回目の参加学生との打ち合わせ会
- ・ 6月28日(金)8：30集合し，古賀市へ企業見学；9：00から西昆，11：00からニビシ醤油
- ・ 7月1日(月)15：00から増田桐箱店

- ・ 7月9日(火) 9:00から(株)ナダヨシ, 10:45から博多菓匠 左衛門
- ・ 7月11日(木) 9:30から五十二萬石本舗
- ・ 7月11日(木) 9:15から日本食品, 11:00から(株)正興電機
- ・ 7月12日(金) 9:00から凸版印刷
- ・ 7月18日打ち合わせ古賀市役所, 学生のみ参加
- ・ 8月7日(水)の15:00より勤労者研修センター 参加し, ポロシャツをお披露目
- ・ 8月19日(月), 20日(火), 21日(水)は終日, 経済学部中会議室にて事前準備
- ・ 8月22日(木)午前9時半古賀市のリーパスプラザ集合, 9時半出発, 15時半頃帰着
- ・ 10月28日(月)16:30から反省会, 古賀市役所新庁舎2階中会議室; 実施報告, 反省内容の確認, 次年度へ向けての構想など。

当日の発表資料を完成するため, 8月19日, 20日, 21日は連続して, 午前10時から, 基本的には全員動員して, 経済学部中会議室で作業をした。その際, 班ごとに模擬のプレゼンを行った。作業の途中で, 古賀市役所からYさんが来られ, 熱心にアドバイスをいただいた。また, 経済学部事務室長Kさんから有益な助言をいただいた。19日には, 正興電機さんに連絡を入れ, 仕上がり具合をチェックしていただいた。その過程で, 発表資料は模造紙に3枚~4枚ということになったので, 模造紙を20枚ほど追加注文した。また, マジックなど筆記用具, 消しゴムも準備をした。出来上がりは, できるだけ小学生にも分かりやすく, かつ, 読めるように工夫をした。すべての準備作業が終わったのは, 前日の21日であった。

3) 第1回「古賀モノづくり博 工場見学・体験教室 ~工場見学したいけんツアー」当日

夏休み期間中の8月22日(木)に行われた。参加した小中学生は, 総計45名であった。コーディネート役の学生と教職員は, 会場の古賀市のリーパスプラザに9時に集合するというにしていた。一部の学生はJRを利用したが, 残りの学生は九産大の1号館に8時00分に集合し, 教職員(S先生, K室長,

筆者)の運転する3台の車に4人ずつ分乗し、リーパスプラザへ向け出発した。リーパスプラザに8時25分頃に到着し、8時30分よりKSU経済学部の「団結式」を行った。

古賀市の小中学生は、午前9時半に古賀市のリーパスプラザに集合し、10時出発予定であった。ただし、第1班は3か所の訪問のため、午前9時集合、9時半出発予定であった。8時30分頃から準備が始まり、全員で手伝いをした。古賀市役所の方々も、はじめての体験だったので、その場で修正を加えながら取り組まれたようだった。無論、経済学部の学生たちも、慣れないながらもまじめに取り組んでいた。

先にも書いたように、この企画は、古賀市の小中学生に地元のことをもっと知ってもらい、将来的には地元の企業に残って働いてもらいたいという、企業サイドの願いが込められている。そのため、見学を受け入れた企業も古賀市役所も、かなり気合の入ったプロジェクトになっていた。参加した古賀市の小中学生に対しては、相当な気配りがなされていたように感じた。コーディネート役を務めた経済学部の学生たちは、新調した揃いの経済学部のポロシャツを着て参加した。ポロシャツに、経済学部のやる気を込めた。

教職員の班分けは、1班筆者、2班S先生、3班K先生、4班K室長とした。1班を除き、体験コースがあるので、下はズボン系で統一。服装は、上着は揃いのポロシャツ、下はズボン系、靴は歩きやすい運動靴系でそろえた。

各班の見学コースは以下の通りであった。

- ・第1班；凸版印刷（見学） 正興電機（見学・昼食） 日本食品（見学・体験）
- ・第2班；ナダヨシ（見学・体験） 研修センター（昼食） 左衛門（見学・体験）
- ・第3班；ニビシ醤油（見学） 研修センター（昼食） 西昆（見学・体験）
- ・第4班；増田桐箱店（見学） 研修センター（昼食） 五十二萬石本舗（見学・体験）

暑い中を学生たちは、きちんと引率を行い、好評を博した。幸い、昼食は古賀市等が準備してくれた。当日の名札も、古賀市の方で準備をしていただ

いた。

予定通りのスケジュール表に従い、各班とも、15時半過ぎにはリーパスプラザに帰着、直ちにプレゼン用の模造紙の完成に取り掛かり、午後16時過ぎにプレゼンを開始し、17時過ぎに無事終了した。

今回の事業は、経済学部として初めての試みであったので、多少の不安を感じてはいたが、終わってみれば「案ずるより産むがやすし」であった。終了後、企業や市役所の方たちから労いの言葉が聞かれ、参加学生たちも達成感に浸っていた。初回としては大成功であった。

当日の写真



4) 事後の活動

9月29日(日)に開催された本学の第2回オープン・キャンパスにおいて体験報告会を実施した。見学に来てくれた高校生からは以下のような感想が寄せられた。

「学生の皆さんが、自分たちの体験を非常にわかりやすく説明してくれたので良かった。もし、自分が体験を発表する側になっても、先輩方を見習って丁寧に説明できたらいいなと思いました。」

「経済学部の学生さんの発表によって、実際の学生や学部の雰囲気を知ることができました。私も連携事業に参加し、様々な体験をしてみたいとおもいました。」

「工場見学してみたいと思った。西昆社の明太子がとても美味しそうだった。安全な商品を作るためには徹底した衛生管理が必要だということを知った。五十二萬石本舗のお菓子作り体験はとても楽しそうだった。」

「良い発表でした。いろいろな班の発表が聞けてとてもよかったです。」

「役に立ちました。」

「良い発表でした。経済学部ではこんなことをしているのだということが分かりました。お菓子美味しそうです。」

「企業や役所と連携して、中学生、小学生と触れ合うことができる機会があるなど、先輩方から説明していただいただけで、面白そうだなと思いました。部活動と両立できる等、貴重な意見も聞くことができたので、より一層経済学部に行きたいという意欲を持つことができました。」

以上のように、第2回のオープン・キャンパスに参加した高校生からは好評をいただいた。なお、1月14日に開催予定のゼミナール研究発表会においても、代表者が同様の発表を行った。

5) 成果と反省事項

前の項目で書いたように、この体験は、学生にとっては貴重なものとなった。ゼミナール活動の一環として参加してもらったが、この体験は、今後、

彼らが就職活動を行う際に、自己アピールの材料として使えることは間違いない。学生たちからも、同様の意見が寄せられた。特に、事前の見学会や発表資料の作成段階で、企業の方々と名刺交換したり、意見交換したりできた経験は、貴重なものとなったようだ。

また、工場見学に行く前に、学部の事務室で各学生の名刺を作成していただき、キャリア支援センターのNさんに、会社訪問時の服装、名刺交換の仕方や挨拶の仕方等の基本を指導していただいた。これは学生たちにとって、大変有益であったので、特筆しておく。

以下、いくつか次年度へ向けての修正すべき点を挙げて結びに代えたい。まず、最初に、参加学生を集めることが、結構、難しかった。説明会に現れて、参加しますと言いながら、結局は、確定せず、途中で来なくなった学生も少なからずいた。この理由として、平成25年度は、正規科目としては開講していなかったために単位がなかったという問題点があったと考えられる。

また、各班の責任者を、最終的には、筆者のゼミ生の3年生4名で充てた。そうせざるを得なかったのは、参加者が総計11名と少なく、責任を持って実行してくれる学生となると、筆者のゼミ生を動員するしかなかった。人数の少なさを補うために、事前の準備作業においては、他の3年のゼミ生に手伝ってもらうことになった。

実をいうと、工場見学の際に遅刻をしたり、欠席をしたりした学生もいた。これは偶然にも、他の学生の参加で補うことができたが、企業サイドのことを考えると、決して好ましいことではない。そうしたことが生じないためには、学生のモチベーションを上げることを考える必要がある。

以上の反省から、H26年度は、アクティブラーニング系の科目「実践企画演習（学外連携）」の中に、この活動を組み込み、実施する方向で改めることにしている。

なお、この行事に関しては、古賀市役所（商工政策課）および商工会の方々、表記の各企業の方々には大変お世話になりました。記して謝意を表します。

資料 今年の企業見学・実演に参加した企業の紹介

凸版印刷 <http://www.toppan.co.jp/>

大日本印刷とともに、日本を代表する印刷会社です

古賀市にはトッパンパッケージプロダクツの福岡第一工場と第二工場があります。ここでは、主に、食品関連の様々な形の食品パックの印刷物を作っています。私たちがよく知っているお酒、インスタント食品、レトルト食品、ボトルパウチ等のラベルや包装の印刷製造を行っています。工場は、最新のテクノロジーを備えたオートメーションシステム、高度な品質管理、厳しい基準の清潔さ、省資源・環境保護を行うエコロジー設備等を誇っています。

歴史は、1900年（明治33年）凸版印刷合資会社の創立。1908年（明治41年）凸版印刷株式会社に改組され、現在では、資本金104,986（百万円）（2013年3月末現在）となっています。（HPより引用）



(株)正興電機製作所 <http://www.seiko-denki.co.jp/>

知る人ぞ知る、地場の大企業です。先輩も沢山います。

水質監視装置（生物センサー）や機能性液晶フィルムで有名！

1921年創業以来「最良の製品・サービスを以て社会に貢献する」を社是とし、堅実な経営、人材育成を基礎として、時代を拓く技術の開発を続けている会社です。資本金は23億2,300万円、従業員（単体で）約600人。中国、マレーシア、フィリピンにもグループ会社があります。コアの事業は、電力、環境エネルギー分野です。電力の安定供給と制御技術や水処理管理システム、広範な産業領域で環境・省エネ等に関する情報と制御の独創技術で新製品・新事業の創出に取組むことを通して、環境にやさしく安全で快適な社会のインフラ構築に貢献しています。

企業の情報は、敷地内に設けられたL（絆，連携）サイトの展示室で見

昭和4年1月、資本金2,600万円。
桐箱製造・販売。創業以来80年余り、
「誠実」を経営基本方針として、会
社一丸となって桐箱の製造に専心し
て参りました。弊社では原木の吟味
から仕上げまで一括しております。
以下、いくつか製品を紹介しましょ
う。(HPより引用)

塗箱各種



ニビシ醤油(株) <http://www.nibishi.co.jp/company/index.html>

地場の醤油屋さん。醤油，味噌，麵つゆ，加工調味料（スープ類），醸造
酢，ソース，その他，食品の製造販売をしています。

オンラインショッピングもあります。



会社のHPより引用；

ニビシは大正8年に多くの株主を募り、株式会社という新しいスタイルで起業しました。何百年もつづく老舗が多い醤油味噌醸造業界において、百年足らずの歴史では、まだまだひよっこです。当時、まったくゼロからのスタートでしたが、その分チャレンジ精神は旺盛で、九州の伝統の味を学びながら、新しい味づくりへの研究を重ねてきました。かつて日本食は「さしすせそ」が基本でした。しかし、時代とともに食文化は多様化し、そして調理にもスピードが求められるようになりました。時代と歩調を合わせてきたニビシも、いま大きな転換期を迎えようとしています。基礎調味料メーカーから総合食品メーカーへ。これはニビシにとって言葉以上の大きな変身です。



資本金 90,000千円，事業内容は，醤油，味噌，麺つゆ，加工調味料（スープ類），醸造酢，ソース，その他食品の製造販売。ニビシグループ 営業9人 / 工場150人

創立は大正8年10月20日，資本金 9,000万円（HPより引用）

地場の食品製造販売会社を二つ紹介！

古賀の工業団地では，毎月，最後の水曜日には工場直販があります！

日本食品(株)，(株)西昆，(株)カイセイ，(株)あらい，くまや蒲鉾(株)など

日本食品(株) <http://www.nisshoku-co.co.jp/>

創業は1963年，資本金は約5,000万円。ハム・ソーセージ，調理加工食品，油脂製品等の製造・販売を行っています。「安全」「安心」を基本に，食卓へ「美味しさと健康」「安らぎと感動」を贈ることをテーマとして，現代における「食生活の改善」を進めています。工場見学可です。（HPより引用）



(株)西昆 <http://www.saikon.com/>

創立は昭和14年，資本金は3,300万円。西昆はその名が示すとおり，昆布を初めとする海産物問屋です。健康を育む食文化を未来の子どもたちに残すことを念頭に，添加物をできるだけ使わない天然の味を大切にしています。（HPより引用）



地場の有名な和菓子屋さんが二つあります

あなたも和菓子屋さんコラボして新製品に挑戦してみませんか

左衛門 <http://www.saemon.jp/aboutus.html>

博多名物「博多ぶらぶら」で有名な博多菓匠左衛門は，昭和4年創業の博

多でも有数の和菓子店です。その菓子は材料にこだわり、健康に良い手作りの味を継承しつつ、現代に合う和菓子を創造し続けて、「真心ひとつ、味ひとつ」を合言葉に皆様に喜ばれる和菓子を作るため、日夜努力しています。(HPより引用)



五十二萬石本舗 如水庵 <http://52-net.com/blog/index.html>

神社仏閣の御供物調進所として代を重ねて参りました。「おいしさひとすじ健康によいお菓子を」。お菓子のもっとも大切な原料「小豆」「塩」「水」「卵」へのこだわり。お菓子にとって最も優れた素材を私たちは探し求めてきました。代表作のひとつ「筑紫もち」です。(HPより引用)



ここに挙げた九つの事例は古賀市に立地する企業または事業所であるが、これ以外にも、古賀市の工業団地には、いすゞ自動車九州(株)、三洋工業(株)福岡工場、昭和商事石油(株)、山崎製パン(株)福岡工場、ハウス食品(株)福岡工場、大宝九州(株)福岡工場、三井食品(株)、(株)ネオシス、福岡県中古自動車販売商工組合、三甲(株)北九州工場、ライト工業(株)福岡機材センター、昭和鉄工(株)古賀工場、(株)西部技研、福岡倉庫(株)福岡営業所等、多数の企業、事業所が立地している。古賀市に立地する企業の特徴は、生産、製造関連の企業が多いことである。これは次に紹介している福岡流通センターとの大きな違いである。後者の場合は、協同組合福岡卸センターに衣料品・婦人服卸、寝具・インテリア、不動産等約60社、福岡流通団地運輸協同組合には約20社、九州団地倉庫協同組合と福岡団地倉庫協同組合には約20社弱、そのほか賛助会員には約

60社が立地しているが、それらの企業は流通・運輸・倉庫業が圧倒的に多い。

いずれにしても、両方の団地共に身近で有力な就職先であり、地元で働きたいと考えている学生諸君には、就職活動の際に候補の中に入れておくべきである。詳しい情報は、インターネットで検索可能なので、自ら調べることを推奨します。

「補論 福岡流通センター祭りへの運営協力に関する報告」

古賀市の企画と並行して、福岡流通センター祭りへの運営協力も行った。こちらについては、11月23日の勤労感謝の日に、毎年行われてきた「福岡流通センター祭り」への協力が可能かどうかを打診したことから始まった。2013年4月だったと思うが、その後の事項を時系列に示すと以下ようになる。この祭りは、30回を超えており、東区ではそれなりに知られており、参加者は天候次第だが、少なくて約1万人、多いときは約2万人を動員する行事である。

- ・ 5月24日(金)14:00 福岡流通センターの連合会の鳥飼哲夫氏来学, 打ち合わせ
- ・ 6月19日(水)13:30 福岡流通センター訪問(2人の学生とともに)
- ・ 7月1日(月)14:00 福岡流通センター会合に出席
- ・ 7月18日(木)10:00 学生のみ出席
- ・ 8月23日(金)10:00 福岡流通センター
- ・ 9月20日(金)10:00 福岡流通センター
- ・ 10月18日(金)10:00 学生のみ出席
- ・ 11月15日(金)10:00 福岡流通センター
- ・ 11月23日(土) 「福岡流通センター祭り」

5月の九産大経済学部での打ち合わせの際に、福岡流通センターサイドから、学生2名を固定してもらいたいとの意向が示された。そこで、筆者が適任と思われた2名の4年生を選んで参加させることにした。これらの2名は、大学祭実行委員会のメンバーであり、参加する予定の学生サークルとの連携がやりやすいと考えて選抜した。

学生2名(と教員1名)は、「福岡流通センター祭り」の運営協力員として、「会員交流委員会」に参加し、祭りを盛り上げるイベントを企画し、実行する役割を担った。具体的には、運営協力委員の学生が、九産大の学生サークルに出演を呼びかけ、了解を得て、当日の活動に関するもろもろの手配を滞りなくこなすという活動であった。

幸いにも、平成25年度は「プロレス研究部」と「ダッキージャズオーケストラ」が参加してくれて、祭りを大いに盛り上げることができた。両サークルの評判は上々であり、福岡流通センターからは大いに感謝され、両サークルともに、次年度の出演についてもオファーをいただいた。

偶然ではあるが、オーガナイザー二人の内の一人は、運輸関係を希望する学生だった。彼が就活の面談に行った際に、「何か、ボランティア的なものをしていますか」と聞かれ、福岡流通センター祭りの運営協力委員をしていると答えたら、好印象で、内定をいただいたという幸運があった。福岡流通センターに立地する運送会社に就職することができたのである。

今後の課題としては、11月23日の勤労感謝の日は、例年、本学の推薦入試の日と重なり、教職員の付き添いが難しいという問題点がある。また、オーガナイザーになる学生は、各サークルとの連携のためのパイプを持っていることが望ましい。

もう一つ、これは立地の関係なので如何ともしがたいのであるが、福岡流通センターへのアクセスが不便という問題がある。公共交通で九産大から福岡流通センターを訪ねようとする、非常に不便なのである。JR 鹿児島本線各駅停車の列車で、九産大前駅から箱崎駅へ移動し、西鉄バスに乗り換えのために、箱崎駅西口バス停から77番、または78番に乗車、流通センター西口、または多の津公園前下車になる。JR と西鉄バスで往復540円が学生の負担になる。(実際には、担当教員が負担した。) また、経済学部としては、当日の学生の移動に関する貸し切りバス代金、ならびに学生が活動中の「保険金」の負担があった。なお、福岡流通センターからは、参加サークルの機材搬入に関して資金の支援をしていただいた。記して謝意を表します。

最後に、ご協力いただいた「プロレス研究部」と「ダッキージャズオーケストラ」のメンバー、そして仲介を下さった学生部の皆さんには、心からお礼を申し上げます。

当日の写真



注)

1. 【アクティブ・ラーニング】の定義；教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。文部科学省『用語集』より。

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_3.pdf#search='%E3%82%A2%E3%82%AF%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%96%E3%83%A9%E3%83%BC%E3%83%8B%E3%83%B3%E3%82%B0'

- 2) 2011年2月2日付、日本経済新聞のALに関する記事

なお、河合塾による調査結果は、インターネットで見ることができる。

<http://www.kawaijuku.jp/research/activelearning/>